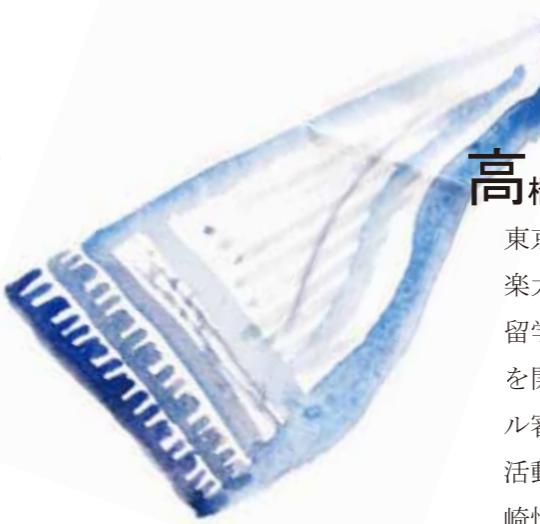


法要後 ピアノとチェロと  
ふるぐらむ

バッハ アリオーソ プーレ  
エルガー 愛の挨拶  
サン・サーンス 白鳥  
八木節 ／ 赤とんば  
その他



## 楠 本智佳子／Chikako Kusumoto



愛知県立芸術大学音楽学部卒業、同大学院修了、いしかわ  
ミュージックアカデミー参加。2002年アジアユースオーケ  
ストラ参加、カワイ出版『はじめてのチェロ』『やさしいチ  
ェロ』監修、今までに鷹栖光昭、田村宏、茂木新緑、河野文  
昭、天野武子もL. ガンタ各氏に師事

## 高橋摂子／Setuko Takahashi

東京都立芸術高等学校を経て、東京音  
楽大学卒業、チェコ国立プラハ音楽院  
留学、帰国後東京にてソロリサイタル  
を開催、全日本ピアノデュオコンクール  
審査員、ソロ室内楽、合唱伴奏にて  
活動する。これまでに青木紀久子、田  
崎悦子、岸邊真知子、フランティシェク・  
マキシアンの各氏に、室内楽をイト  
カ・ノヴァーコウラー氏に師事

不連続シリーズ

# 見つけた!

街かどに禅を探し、現代に仏教を見つける

## クモの巣のように、知らぬま にのさばるのがいる



撮影／千田完治

左にかかけたのはクモの巣の写真です。檀家の千田完治さんの撮影です。クモの巣は人間に對してそれほどの害はおよぼさないけれど、人の手が届かなくなつて荒廃した姿を想像させるので、印象が悪い。

しかし、ご存じのように人が生活している場でも、いつの間にかのさばつてしまします。今朝も玄関の高いところに張っていたので柄の長いほうきを探して、とりはらつたのでした。

同じように知らぬまにのさばつて、世の中の常識になつてしまつものがあります。たとえば、『京都きらり』（朝日新書）という本の中で、著書の井上章一氏が「京都の大文字山で、毎年八月十六日の晩に、おおきく「大」という字がともされる。あれは著者の幼いころは「大文字焼き」と

いました。同じく「大文字焼き」ですが、その他の「大文字山」は、毎年八月十六日の晩に、おおきく「大」という字がともされる。あれは著者の幼いころは「大文字焼き」と書きました。同じく「大文字焼き」ですが、その他の「大文字山」は、毎年八月十六日の晩に、おおきく「大」という字がともされる。あれは著者の幼いころは「大文字焼き」と書きました。

言っていた）。それがいつの頃からか「五山の送り火」とよべ。そうとなえだした人がおり、それももつともだと、このごろは考えられているのである。もともとは「世俗的な見世物」だったのが、信仰の力を取りて、深遠なストーリーをつくりてしまつたと憤慨しているわけです。

まだまだあります。知らぬまに大きな顔をして、ずつと昔からあるようなそぶりをしているものに金封の「御仏前」袋があります。この欄で数度書いたので、「またか」と思われる人もいるでしょうが、またまた、書きます。

不祝儀のときに使う「御靈前」袋にはそれなりの歴史があるようです。でも、「御仏前」というのは、せいぜい昭和の終わり頃からみかけるようになつたものです。

「御靈前」と印刷して利益を得た紙業者が、次ぎにたぐらんだのが「御仏前」袋です。葬儀・通夜・四十九日までが「御靈前」、その後は「御仏前」というのはとつつけたようない理由で、根拠がない。コンビニで売つているのが「御靈前」と「御仏前」しかないから緊急の時にどうしても使われてしまい、でかいソラをしているのが気に入りません。それも、一業者のたぐらみからはじまつたのが許せない。

さて、今夏8月3日付「読売新聞」朝刊に小泉信次郎議員の次のようない発言がのつっていました。

「おかしいと思った時に、おかしいとちやんと自分は言つていいが。なぜ、あの時、黙つてしまつたのかと後悔する生き方はしたくない」

若きエースにならつて、おかしい時はおかしいと言おう！これでも、あまり言わずに我慢しているつもりです。

## 編集後記

○右がわの記事で引用した井上章一著『京都きらり』は、三年前のベストセラーだからお読みになつた方も多いでしょう。著者は建築史が専門です。靈柩車の歴史を調べた『靈柩車の誕生』（朝日文庫）という著作もあっておもしろい学者さんです。そんな学者が十一月一日に京都・妙心寺で講演をします。会場は妙心寺の法堂（はつとう）という建物です。法堂の天井には狩野探幽が描いた龍図あります。井上章一氏は今、売れっ子の学者さんだから方々で講演をされる機会は多いです。住職は他の行事があつて行けないのが残念○この講演会を主催するのは妙心寺・微笑会（みょうかい）といふ組織です。妙心寺の文化財保護を目的に設立されたもので、会長は京セラの稻盛和夫氏です。年会費一萬円でどなたでも入会できます。特典いっぱいの会なので、興味のある方は松岩寺住職へお尋ねください。松岩寺の檀家さんでも数人の方が入会されています○京都の寺院はどこもそうでしょうが、重要文化財や国宝を飾り物にするのではなく、日常使つているところがすごい。十一月二日の講演会の後、大方丈という建物で昼食をいただけるのですが、この建物も重要文化財。重要文化財でお昼ご飯を食べるなんて機会はそうないのでは。ちなみに今夏六月に新亡供養で本山を訪れた方の昼食も大方丈でした○京都も、近くなつて珍しくない現代。これからは、京都の深部を探つてみては、それには、微笑会がおすすめです。（住職記）